



練習

7月から始まった練習。日曜日の夕方に、猪俣中央会館から夏の始まりをつげる笛と太鼓の音が響きます。

最初は、ばちの持ちかたや太鼓をたたく時の姿勢を教わりながらの練習で弱々しくしばらくはだつた音。しかし、練習を重ねるごとに徐々に力強く自信に満ちた音へと変わっていきましました。

音が出るようになると、親方から「太鼓の叩きかたや笛の音色に自分なりのアレンジを加えてみよう」と提案がありました。

行事本番、集まった人たちに自分の音や姿勢を見てもらうための提案。子どもたちは、本番まで自分たちで考えながら練習を続けました。



いつもと違う夏—— つなげた 想いと伝統

40年以上受け継がれていると伝わる盆祭りの行事「猪俣の百八燈」——

今年は、感染対策を徹底して行いながら、誰も経験したことない伝統行事となりました。練習時間の短縮や距離をとつての練習、暑い中でのマスクの着用やアルコール消毒……。どんなに感染対策に苦労しても、地域の子どもたちに「伝統行事に触れてほしい」「子ども同士、年齢を超えた交流をしてほしい」と強く想う大人たち。そして、小学生の頃から伝統をつないできた中高生たちの、伝統をつなぎたいという強い思い。

今月の広報みさとでは、地域の理解と協力、そして関係者たちの強い思いで開催された「猪俣の百八燈」を子どもたちを中心に紹介します。

準備

連日の猛暑が続く中、「水分とって」と声を掛けあいながら当日に向けての準備が行われました。前日には、子どもたちが猪俣地区を歩き回り、一軒一軒訪問して「人別」と呼ばれる寄付金と材料集めを行い、その後、猪俣中央会館で当日塚の上で火をともし「燈明」を急須と真わたで作り上げました。

急須の細い口から真わたを出すのに一生懸命な子供組、作業をしながらたわいもない会話で笑顔を見せる若衆組。練習の時とは違う、子どもらしい表情を見せながらの準備になりました。



子供組

小学校1年生から小学校4年生が務め、親方たちの指導のもと行事を行います。



若衆組

小学校5年生から中学校3年生が務め、親方たちの指導のもと行事を行います。

